（別添資料１）

事業所名　音更町第1子ども発達支援センター（みらい）

支援プログラム

作成日　2025 年　1 月　22 日

法人（事業所）理念		・叡智　利用者の処遇（支援）には、職員ひとりの力には限りがある。叡智を集めて事に当たり、チームワークの大切さを自覚する。 ・愛情　利用者に正しい愛情を持つ。特に処遇（支援）については、何が正しい愛情なのかを充分に知って当たることが不可欠である。 ・探求　事象には原因があり、結果がある。たんに自傷のみから判断して処遇（支援）してはならない。			
支援方針		・児童発達支援では、マンツーマン支援を生かし、個人に合わせスモールステップでの成長を促します。放課後等デイサービスでは、マンツーマン支援を主軸にして、小集団支援を取り入れながら培ってきたスキルを般化できるように支援を行います ・普段から保護者と話し合う場面を設定し、家庭・機関等での困難場面について、家庭でできる支援方法を話し合ったり、機関と情報を共有していきます。又、保護者の要望によって、ケース会議に参加したり、機関と話し合う場面を設けていきます ・地域からの依頼で機関に訪問し、困り感のある子どもの行動観察を行ったり、発達検査を実施して療育を勧めたり、家庭・機関で出来る支援方法のアドバイスを行います			
営業時間		9 時　00 分から　18 時　00 分まで		送迎実施の有無	あり　(なし)
		支　援　内　容			
本人支援	健康・生活	・衣類たたみ、スプーン、洗濯ばさみ、箸、紐縛り、ボタンなどの練習による生活能力の向上 ・スケジュールの理解・活用、タイマーを活用した時間や切り替えのコントロールを行う ・スケジュールに「トイレ」を入れ、トイレ誘導を行うことによる排泄支援			
	運動・感覚	・微細運動、粗大運動、手指機能の訓練による全身機能の向上 ・落ち着いて取り組む姿勢を養う			
	認知・行動	・認知力の向上、短期記憶の練習 ・概念形成・書字活動・点結び・金銭指導・時計の読み方等中心に、よく見る・探す・指示に従う・自分で行う力をつける ・短期記憶の練習			
	言語 コミュニケーション	・話す、説明するなどコミュケーションの練習 ・カード選択、指示対応等を行い、傾聴姿勢を高める ・日記、作文、絵日記などによる自己表出の練習			
	人間関係 社会性	・状況を把握する・絵を見て考える・言葉の意味を理解する・状況にあったことばをかける・語用・コミック会話・PECS・ジェスチャー言語等を練習し、集団の場で要求を出したり場の雰囲気を読んだりする練習を行うことで社会性を身につける ・キャットキットを利用した感情のコントロール方法の獲得			
家族支援		・保護者の悩みや心配な事、関わり方、各機関での対応などを確認し、常に般化できるように心がけます ・保護者面談は年2回実施しますが、必要に応じて適宜、実施します ・保護者向けの勉強会を実施します		移行支援	・利用者の通っている保育園・幼稚園・認定こども園・学校には、できるだけ見学に行き、関係機関の様子を確認していきます。また、担当保育士、教諭と本人の状況や発達の様子、学習の進み方、保護者の様子等についてカンファレンスを実施します。年長児・6年生の児童については、教育支援委員会についての確認も必ず実施します。
地域支援・地域連携		・機関訪問：年に1回（希望者は2回）、各機関へ訪問し、担任の先生等と情報共有を行い、お子さんの支援につなげます ・必要に応じて機関・病院・リハビリへの見学、付き添いを行います		職員の質の向上	・講演会や研修への参加を行い、知識・技術の向上に努めます ・道立施設等専門支援事業、地域療育支援事業に参加します
主な行事等		・保護者面談（年2回） ・小集団支援（学齢以上「料理支援」「買い物支援」「バス支援」「SST]） ・避難訓練（月1回） ・講演会の実施（年1回）			